



WHA GROUP NEWS

WHAグループニュース <http://www.wha-group.com>

vol.31

EECCの玄関口、バンナーのWHAタワー建設工事が順調に進捗 2020年末に完成予定

リース総代理店のJLLは同タワーの開発によりバンナーにおけるグレイドAオフィス市場の供給不足が緩和されると予測



タイにおける完全に統合された物流、工業団地、公共インフラと電力、およびデジタル・プラットフォームのリーダー企業であるWHAコーポレーション株式会社(WHAグループ)は、新たな本社ビルとしてテップラット通り(旧称「バンナー・トラッド」)KM7に建設中のWHAタワーが入居

希望企業から強い関心を集めていることを明らかにしました。この25階建てのビルは5万2,000㎡を超える柔軟性の高いオフィススペースを提供し、創造、イノベーションとコラボレーションを推進するために共用のオープンスペースも設けられます。このモダンなコンセプトは相互作用を促進するオープンプランの職場を必要とする一般企業、多国籍企業(MNC)、技術SMEとスタートアップ企

社を楽しむライフスタイルを組み合わせたグレイドAのオフィスビルでバンナー地域に立地します。この発表にはJLLのスピニン・メチュエツェップ常務取締役(左から2人目)、WHAインダストリアル・デベロップメント株式会社のデビッド・ナードン海外・国際担当グループ・エグゼクティブ(右から2人目)、シヤバス・チャントチャイロート法人マーケティング担当取締役(右端)、およびJLLのユバ・サティエンパブット・オフィスリーディング責任者(左端)が同席しました。

WHAコーポレーション株式会社のジャリーポーン・ジャルコーンサクン会長兼グループCEOは、「テップラット通り(バンナー・トラッド)の戦略的な場所に立地し、弊社の新たな本社となるグレイドAのオフィスビル開発プロジェクトについて、私たちは興奮を抑えきれません。WHAグループはこのプロジェクトのリース総代理店として国際的な大手不動産サービス会社であるJLLをパートナーとしてこのことを楽しみにしております。弊

社は近代的なビルの柔軟性の高い職場環境を求めるダイナミックな企業を対象としたオフィススペースの提供を間もなく開始します。このビルはスポーツエリア、共同スペース、雰囲気の良いカフェやその他のアクティビティなど、多数の特別な機能を備えています。その目的は仕事、健康、そして遊びを楽しむライフスタイルを組み合わせたグレイドAのビルを組み合わせることができる、優れた職場・生活体験を企業ユーザーに提供することです。」

WHAタワーの約35%はWHAグループのオフィスで占められますが、残るエリアは主にWHAの顧客企業と新世代の企業や実業家向けに賃貸用オフィススペースとして提供されます。テップラット通り(バンナー・トラッド)KM7という理想的な立地条件を備えており、バンコク中心部にも近い上、EECC地域も車で短時間で訪れることができます。スワンナプーム空港、メガ・バンナー、セントラル・バンナー、多数の住宅プロジェクトも近距離にあり、バンコクと主要幹線道路にも素早くアクセスできます。このビルは効率を最大限に高めるべく設計されており、テナントと訪問者が常に最も便利なルートを選択可能です。未来志向のWHAタワーは風景の中にそびえる山をイメージした急角度の優美な曲線が特徴的なデザインで、一貫性と豊かさを表しています。三角形のパターンから成るダイヤモンドのような細長いジオデシックドームが上に向かって伸びており、山の頂上を目指してエネルギーが駆け上っているかのように見えます。

廃棄物管理



ジャリーポーン・ジャルコーンサクン 会長兼グループCEO WHAコーポレーション株式会社

都市化と産業化の急速な進展により、膨大な量の廃棄物が生み出されています。ある資料によると、2017年にタイでは合計約2,700万トン、1日あたりに換算すると7万4,998トンの固形廃棄物が生じました。これは1人あたり1日に1.13キログラムの廃棄物を生み出したことを意味します。

タイでは年間3,300万トンの産業廃棄物が処理されますがそのうち3,100万トンは無害で、200万トンは有害です。タイ開発研究所(TDRI)によると大量の有害な産業廃棄物が不法投棄活動や廃棄物処理業者によって不適切な方法で廃棄され処理されています。このことは過去1年間にラヨン、サムットプラカーン、

第54号：2019年6月19日 水曜日

チョンブリの各県で免許を取得していない企業による不法投棄活動が行われていることを明らかにした公害管理局(PCD)の報告書の内容と一致しています。

廃棄物管理の問題に対処するためには体系的な手法が必要です。最新の技術を利用する処理サービス業者の数を増やす必要があるのです。現在、このような業者は非常に少ないため、業界を独占して料金をコントロールする傾向があります。この問題は最新の廃棄物管理手法を利用することによって対処でき、最も優れた技術の1つはゴミを再生可能エネルギーに変換する廃棄物発電です。

技術的に最も進んだ国々ではすでに極めて効率の高い廃棄物処理システムが導入されています。欧州では多数の国が固形廃棄物の処理に関する法律を施行し、有害物を生じさせた者が自ら費用を廃棄物処理の責任を負うことを義務付けています。例えば、ドイツは廃棄物処理が高度に組織化された国ですが、民間部門に対してこの問題への投資を奨励しています。この方法により政府には廃棄物処理に関連する膨大な電気代の負担がかりません。

WHAグループの約35%はWHAグループのオフィスで占められますが、残るエリアは主にWHAの顧客企業と新世代の企業や実業家向けに賃貸用オフィススペースとして提供されます。テップラット通り(バンナー・トラッド)KM7という理想的な立地条件を備えており、バンコク中心部にも近い上、EECC地域も車で短時間で訪れることができます。スワンナプーム空港、メガ・バンナー、セントラル・バンナー、多数の住宅プロジェクトも近距離にあり、バンコクと主要幹線道路にも素早くアクセスできます。このビルは効率を最大限に高めるべく設計されており、テナントと訪問者が常に最も便利なルートを選択可能です。未来志向のWHAタワーは風景の中にそびえる山をイメージした急角度の優美な曲線が特徴的なデザインで、一貫性と豊かさを表しています。三角形のパターンから成るダイヤモンドのような細長いジオデシックドームが上に向かって伸びており、山の頂上を目指してエネルギーが駆け上っているかのように見えます。

タイにおいては2015〜2036年代替エネルギー開発計画(AEDP2015)および2018〜2037年電力開発計画(PDP2018)によって廃棄物から生み出される電力量がそれぞれ550メガワット、520メガワットに定められました。しかしこれでは十分でさらに高い数量目標を定める必要があると私は考えています。なぜなら各自自治体の固形廃棄物と産業廃棄物の増加が国にとって大きな問題になっているからです。この件に関しては、増え続ける廃棄物を高度な技術を用いて処理できる廃棄物発電所を建設することにより東部経済回廊(EECC)がロールモデルになる可能性があります。これによって相当量の電力を供給し、EECCにおける投資拡大のために政府が景気刺激計画を実施していることで高まりつつある産業部門の電力需要を満たすことができます。

WHAUPが脱塩水事業に参入。収益拡大のためにGPSC-GCO-GCPと販売契約を締結 今年の販売量は1億2,000万m³に達する見込み



バンコク・WHAユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社(WHAUP)は工業ユーザー向けに脱塩水を供給し、併せて浄化水の供給量を拡大するための準備を進めています。同社は先日グローバル・パワー・シナジー株式会社(GPSC)との間で脱塩水を15年間にわたって供給する契約を締結しました。ウイサート・チュンワタナ最高経営責任者(CEO)は同社の事業が今年大幅な成長を遂げ、水の販売量と廃水処理量については1億2,000万m³の目標を達成できると述べ、自信のほどを示しました。また、同CEOはベトナムでの水道事業が2019年第3四半期から徐々に稼働開始すると述べました。

WHAインダストリアル・デベロップメント株式会社のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブは次のように説明しています。「バンナーの最も新しいランドマークであるWHAタワーは仕事と生活に関する解決策を提供します。受賞歴を持つパルマー&ターナー(タイランド)社による設計には全入居者の生産性を高める仕様が盛り込まれており、最先端のテクノロジーを完備したビルとなります。空港に近く、EECCの玄関口でもあるバンナーに位置するこの象徴的なビルでは入居企業の従業員が仕事と生活のバランスをうまく取って維持できます。」

ヤマセイ・タイ社がWHA イースタン・シーボード工業団地2の土地購入契約を締結



油圧配管部品、パワーステアリング用配管部品、パワーステアリングおよびエンジン用無酸化銅ロー付け部品、シートベルトリトラクタ装置用配管部品を製造するヤマセイ・タイ株式会社は先日、チョンブリにあるWHA イースタン・シーボード工業団地2の土地購入契約を締結しました。この工業用地には高性能の製造施設が建設される予定です。これにより、イースタン・シーボード工業団地(ラヨン)に工場を持つ同社の事業運営が一段と強化されると共に、生産能力の増強によってこの地域の顧客への製品供給の拡大が可能になります。

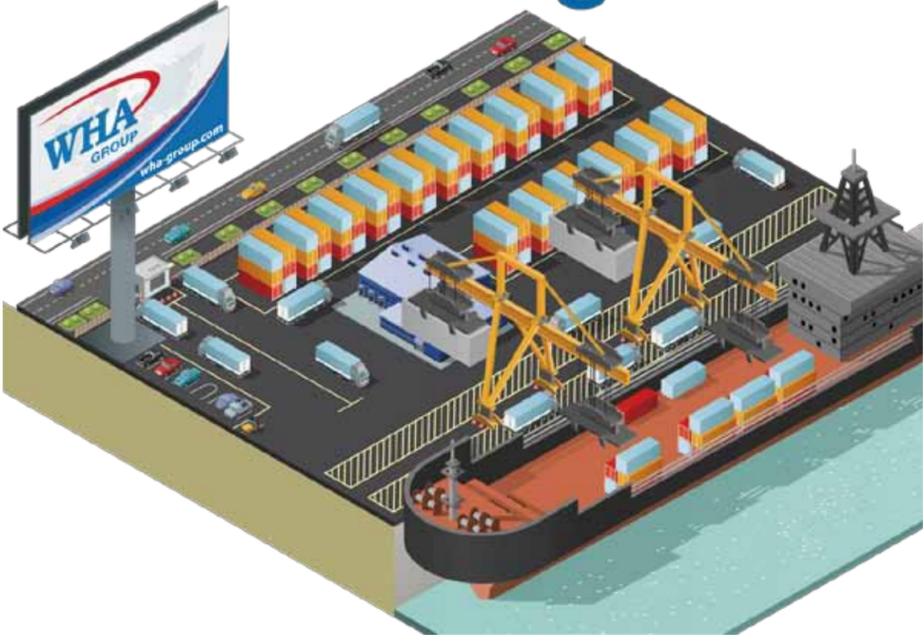
ンコク郊外にあり、インフラと付属施設が整っていて賃料が比較的手頃なオフィスを探している企業からの需要も増えています。これらの企業の多くはバンコク中心部の外側にバックオフィスを置こうと考えている大手企業です。」

スピニン取締役は次のように付け加えています。「しかし、バンナー地区では既存のオフィスビルはほとんどが築25年以上で、品質面で競争力を失っており、質の高いオフィススペースの供給不足に陥っています。これらの理由から、弊

社ではWHAタワーが多数の事前予約を獲得し、2020年の完成時には空室率がゼロになると見込んでいます。これまでのところ、この開発プロジェクトにはすでに国際的な大企業からSMEやスタートアップまで様々な企業から多数の問い合わせが寄せられています。」

コスト効率が高く環境に優しいアプローチが採用された最先端のテクノロジーを完備したWHAタワーは2020年中の完成が予定されています。

Smart Logistics



ジャリコーン・ジャルコンサクン
会長兼グループCEO
WHAコーポレーション株式会社



スマート・ロジスティクス

タイの物流産業はアセアンの中心部という戦略的立地条件のおかげで、タイの経済成長に貢献する接続性の構築において数十年にわたり重要な役割を果たしてきました。製造業者は人体の循環系にも似た物流と交通のネットワークによって国内と海外の双方に自社製品を販売できます。その結果、物流管理の効率性が製品とサービスのトータルコストに直接影響する要因となり最終的には国の競争力を左右します。

指数関数的な技術の出現により、デジタル・ロジスティクスが世界的な現象になっていきます。既存のサプライチェーンと生産システムは第4次産業革命によって徐々に変革されつつあります。インターネットとスマートフォンの普及が消費者のライフスタイルを変容させ、Eコマースの更なる発展をもたらしています。同時に、そのオンラインビジネスが世界のマーケットシェアを獲得した結果、オフラインの実店舗やデパートは適合するか、さもなければ廃業という二者択一を迫ら

れています。タイにおけるEコマースの市場規模は3兆バート以上で急拡大すると予測されているため、タイの物流産業は「ロジスティクス4.0」に向けた変革の道を進まざるを得ません。

私は日本と中国に出張した際に日立物流、JD.com、Cainiao、Zhejiangなどいくつかの大手物流会社の経営トップと面談する機会を得ました。彼らとの話し合いに基づくと、これらのグローバル企業は現在ロボット、自動化システムおよび自動選択ツール、無人搬送車（AVG）、自動保管・自動検査システム（AS/RS）、モノのインターネット（IoT）のほか、倉庫管理システム（WMS）や在庫制御管理/プラットフォームをはじめとする「スマート・ウェアハウス」コンセプトに基づいたソフトウェアソリューションを含む他の高度なツールなどの最先端技術を採用することに、「スマート・ロジスティクス」と「デジタル・プラットフォーム」に向けて自社ビジネスを変革しています。

Eコマース市場の急成長により世界中の輸送・物流業者間でコスト、スピード、サービス面の競争が激化しています。物流業者は現在の事業運営をアップグレードして質の高いサービスを提供すると同時に、コストを最小限に抑えることを非常に重視しています。ビッグデータと機械学習を活用することで、大手物流企業は今後届く発注書を予測してリアルタイムの経路分析を行ったり、分配・配送プロセスを最適化したりできるようにになりました。現在では総コストを抑えてサービスの成果を高めるためにGPSやドローンなどの機器を使ったラストマイル配送が行われています。物流産業は大量のデータと強力なテクノロジーを生かすことによってデータ駆動型となり、他の産業と同様にデジタル・ディスラプションが起こりやすくなっています。



WHAコーポレーション株式会社は今日の社会における教育の重要性を認識しています。教育は各個人が置かれている状況に変化をもたらして改善することができるため、貧困に対抗する最も強力な武器であると考えられます。地域社会において教育は人々の生活の向上、社会の変革、経済成長の促進を実現できます。

WHAグループの学校教育支援プログラムは今年で22年目となります。WHAの経営陣とスタッフは50社を超えるWHA工業団地の入居企業と一致協力して毎年寛大な寄付を行い、近隣地域社会の生徒を支援しています。今年WHAの幹部は5日間にわたって地域社会を回り67の学校で学ぶ2万名近くの生徒に学用品とスポーツ用品を配布しました。これらの

WHAグループが教育と持続可能な社会の発展を支援

2019年度学校教育支援年次プログラムにより67の学校に備品と学用品を提供

生徒はほとんどが恵まれない家庭の出身者です。

WHAコーポレーション株式会社のジャリコーン・ジャルコンサクン会長兼グループCEOは次のように述べています。

「WHAグループは地域社会の若者の教育の質を高めるために全力を尽くします。私たちは将来における産業の発展と国の繁栄の原動力となる次世代の人材を育てている学校を支援したいと考えています。」

学校教育支援年次プログラムには様々な工業団地の従業員、経営陣と入居企業が参加し、近隣地域社会の生徒のニーズを確実に満たす取り組みを進めています。

WHAインダストリアル・デベロップメント株式会社のデビット・エグゼクティブは次のように述べています。「子どもたちに教育を施すことにより、将来の機会へとつながるドアを子供たちに与えることができます。私たちはこ



の有意義な目的のために毎年弊社を支援してください。工業団地入居企業の皆様に大変感謝しております。私たちは若い生徒たちが学業で良い成績を修めて幸福感を促進することができるよう協力して支援することにより、地域社会の持続可能性を高める役割を果たします。これにより、生徒たちが青年に成長したときに、高収入が得られる技能を身に付けやすくなります。このような技能は特に東部

アセアン接続性の展望と、東南アジア諸国を相互に結ぶことを目指す中国の「一帯一路イニシアティブ」（BRI）は輸出とEコマース活動の重要な地域ハブとしてのタイに更なる恩恵を与え、タイの物流業者により多くのビジネス機会をもたらします。その一方で、タイの企業家は業界専門家である先端技術に十分に備えた世界的な主要企業がもたらす新たな課題に直面するでしょう。新たなバリューチェーンで競争力を維持するために、タイの業者は変化し続ける様々な条件に応じて素早く適合する必要があります。

一般に物流活動では業務全体を通じて効率を最大限に高めるために様々な当事者間の高度な協力が必要となります。例えば、物流会社にとっては輸送設備の共有に関するパートナー関係を結んで協力してパートナー関係を通じておきたいと思っています。ディスラプションがすでに新たな常識となったこのデジタル時代で生き残り、競争力を維持するためには、その結果、経路全体を1つの業者で配送する場合に比べて業務全体のコスト効率が高くなります。この傾向は業界全体に広がっている

（1ページより続く）

WHAUPの子会社であるWHAウォーター株式会社は先日GPSCとの間で脱塩水の販売契約を締結しました。契約期間は15年間で、GPSCの当初の注文量は1年あたり150万m³です。この契約による商業サービスの提供は2019年10月18日から開始されます。脱塩水の供給は同社の最新のサービスで、公共インフラサービスの総合的なソリューションプロバイダーになるという同社の強い決意を反映しています。

また、同社は今年前半にGCオキシラン株式会社（GCO）との間で浄化水の販売契約を結びました。GCOは酸化プロピレンの製造・販売会社で、年間約360万m³の水を必要とします。さらに、同社はGCポリオールズ株式会社（GCP）とも契約を締結しました。GCPはポリエチレンポリオール製造・販売会社で、

年間約30万m³の水を必要とします。これら2社が生産工程で水を使い始めるのは2019年12月になる見込みです。新たな顧客企業3社はいずれもWHAイースタン工業団地（マブタブット）の入居企業です。

WHAUPのCEOは公共インフラ分野での海外投資、特にベトナムにおいて同社がベトナムのWHAインダストリアルゾーン（ICZ）で公共インフラサービス事業を運営するための免許をすでに取得済みだと述べました。同プロジェクトは子会社の「WHAUPゲアン株式会社」の運営によるもので、現在開発が進められており、今年の第3四半期に本格稼働を開始する見込みです。

これに加えて、同社はベトナムのゲアンにある水道供給会社、クアウォーター・サプライ株式会社（QWS）への投資も実施しました。クアウォーターの生産能力は現在のところ1日あたり3,000m³ですが、生産能力の増強を進めており、今年の第2四半期中に1日あたり1万3,000m³となる予定です。これは海外、特にCLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）で事業を拡大するという同社の方針に沿ったものです。

計画どおりに成長が実現すれば、2019年におけるWHAUPの公共インフラサービス事業の全体的な見通しは黒字化します。3社の新規顧客へのサービス提供に加えて、同社は水を継続的に必要とする新たな見込み顧客および既存顧客との交渉を進めています。



WHAコーポレーション・ジャルコンサクン
会長兼グループCEO
WHAコーポレーション株式会社

WHA GROUPで更なる飛躍を目指す企業

TOTO (THAILAND) Co.,Ltd.

衛生陶器等の製造販売



人々の生活文化の向上に応えたい。
日本シェア首位の企業がタイにかける思い

TOTO（タイランド）は、トイレ・浴室等の衛生陶器販売で日本国内首位の「TOTO株式会社」（北九州市）のタイ法人です。2009年11月に設立し、今年でちょうど10年が経過しました。タイで現地生産を始めたのは進出3年後の12年のこと。約10万平方メートルの敷地に、延床面積約7万平方メートルの第1工場を稼働させました。今年4月には同じ敷地内に第2工場を建設。両工場ともに衛生陶器の生産を行っており、完成品のうち約2割はタイ国内市場向け、残る8割を日本や米国、アジアなどに輸出しています。

トイレを中心に衛生陶器需要は世界各地で高まっており、来年4月にも第3工場が稼働する見通しです。第1・2工場の敷地からすぐ近くの場所に、約5万平方メートルの建設用地を新たに確保。ここに延床面積約3・5万平方メートルの新工場を建設します。第3工場ではTOTOの看板商品であり登録商標でもある温水洗浄便座「ウォッシュレット」を生産していく計画です。完成品については当初は全量を日本などに向けて輸出しますが、市場の動向を見据えながら順にタイ今後にも供給していく予定です。

タイをはじめ東南アジア一円で衛生陶器需要が拡大している背景に、衛生面に向ける関心の広がりがあります。

商用や観光で日本を訪れたタイ人客らが日本のホテルや空港、商業施設でまず目にするのが、綺麗に調和の取れた日本の水回り文化です。単に用を足せばよいという機能に限

定しただけでなく、清潔感があって居心地が良く、穏やかな気分になれる。そんな感覚に接し、自国に戻った後も同様の環境を求めるようになっていきます。絶対必要数が激しくは伸びていない中で、ハイグレードの衛生陶器の需要が伸びているのはこんな理由があります。

加えて大きいのが、タイをはじめとした東南アジアの人々の所得が向上したこと。これまではあまり余裕もなく、見向きもされなかった衛生陶器にお金をかけられるようになったことで、消費者の皆さんが生活に快適さを導入するようになりました。それは言い換えれば、清潔で便利な生活に価値を見出したということになります。当社ではこうした顧客の持つ10年先の価値観を見据えて、製品開発と市場開拓を進めてきました。今それが、ようやく花開き始めています。

ベトナムやインドネシアなどタイの周辺国でも同様です。東南アジアの拠点であるタイに比べればまだまだその動きはゆっくりとしています。それでも着実に需要は拡大しています。ここ1・2年、特にそれは顕著です。快適で豊かな暮らしを求めてニーズは広がりをみせています。これまで以上の「TOTOファン」を獲得していくために、当社では今後10年先を見据えた攻めの事業展開を進めていく計画です。

WHAサラブリー工業団地への入居は、原材料調達の利便性のほか、水、電気、取付道路といったインフラ面の利点を総合的に勘案して決断しました。中でも、陶器生産にお



て安定した電力供給は必須で、いったん停電ともなれば製品の精度にも影響が出てしまいます。その点、当工業団地は何らかの心配はなく、安心して操業を続けることができそうです。第3工場を同じ工業団地敷地内に建てることにしたのも同じ理由からです。

WHAスタッフによるサポート体制にも、とても満足しています。工場周辺の定期的な巡回や、不具合などが見つかった場合の提案も素早く的確で、さまざまな相談にも乗ってもらっています。工場側が気付く前にアドバースをいただくことで、より良きパートナーとしての信頼感も培われています。今後も良き関係を続けたいと思っています。

現在、TOTO（タイランド）の社長を務める島田崇康氏は1993年にTOTOに入社。九州や東京などで通算約20年営業職にあり、マーケティング調査担当などを経て、2018年4月に営業統括としてタイに赴任しました。1年後の今年4月から、現地法人のトップとなりました。その島田社長は、一昨年に創業100年を迎えたTOTOの衛生陶器事業について「各国の人々の生活文化向上に応えていく仕事」と解説します。そして、「現地の人々の暮らしに光を当てていきたい」としてインタビューを締めくくります。



WHAのブースを訪れたゲアン省人民委員会のLe Ngoc Hoa 副委員長（右側）を歓迎するWHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社のアンチャリー・プラサートチャン国際担当部長（左側）



Nguyen Xuan Son ゲアン省党委員会常任副事務局長兼ゲアン省人民評議会議長（右から2人目）と Nguyen Hai Duong ゲアン省外務局長（右端）に、WHA インダストリアルゾーン1-ゲアンについて説明するWHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社の湯浅謙一系法人担当アドバイザー（左端）とアンチャリー・プラサートチャン国際担当部長



この地域で非常に良い評判を得ています。省政府は道路、海路、鉄道および空路による物流を改善する努力を続けており、それが投資家にとってのゲアンの魅力を一段と高めています。また、同部長は日本のビジネスマンに対して次のように説明しました。「WHAとしては、タイで30年以上にわたって培った知識と経験をベトナムで生かし、グローバルな最

WHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社のアンチャリー・プラサートチャン国際担当部長と湯浅謙一系法人担当アドバイザーは先日、ベトナム中央北部のゲアン省で開催された「ゲアン・日本会議・協力と開発」に来賓として参加しました。

この会議では、ベトナム国内と海外の投資家にとって魅力的な投資先になりつつあるゲアンで新たな投資機会を模索している様々な業界の日本人ビジネスマンが一堂に会しました。アンチャリー部長はスピーチの中で、ゲアンの投資家であ

ると同時に主要なパートナーでもあるWHAグループの経験について語りました。同部長はWHAグループの画期的なプロジェクトであるWHA インダストリアルゾーン1-ゲアンについて説明しました。このプロジェクトは完成時に3,200ヘクタールの規模になることが見込まれ、ベトナム中央北部で最大の世界水準の工業区になります。

アンチャリー部長は次のように述べました。「ゲアンは戦略的な製造拠点として急速に人気が高まっており、この地域で非常に良い評判を得ています。省政府は道路、海路、鉄道および空路による物流を改善する努力を続けており、それが投資家にとってのゲアンの魅力を一段と高めています。また、同部長は日本のビジネスマンに対して次のように説明しました。「WHAとしては、タイで30年以上にわたって培った知識と経験をベトナムで生かし、グローバルな最

善の手法を用いて環境面で持続可能な工業開発を推進します。」

この会議の後、会議参加者の代表団はアンチャリー部長と湯浅アドバイザーの案内によりWHA インダストリアルゾーン・フェーズ1の見学を行いました。フェーズ1の開発面積は498ヘクタールで、工業用地、倉庫、賃貸用工場等をベトナム国内と海外の投資家に提供する態勢がすでに整っています。湯浅アドバイザーは次のように述べました。「WHAの基本理念について説明し、ターゲット産業とハイテク産業を含む様々な分野の製造/サービス企業を迎える準備が整っていることを伝えたいところ、日本のビジネスマンは非常に好意的で理解ある態度を示してくれました。ゲアンでの投資は人的資源、インフラストラクチャー、ゲアン省政府の優遇税制と投資奨励策などの点で非常に魅力的です。弊社は近い将来にこれら日本人ビジネスマンをお客様としてお迎えできる日を待ち望んでいます。」

WHA インダストリアルゾーン1-ゲアンが販売開始
日本からの直接投資家を歓迎

The 10th WHAの工業団地

WHA Industrial Development

WHA イースタン・シーボード工業団地

ロボット、航空、物流及び次世代自動車産業をターゲットとする東部経済回廊（EEC）域内投資奨励ゾーン

- 自動車・ハイテク・航空宇宙・消費財産業およびその他製造業にとつてのロケーション
- レムチャバン深海港至近
- イースタン・シーボード工業団地（ラヨン）およびWHA イースタン・シーボード工業団地1まで10km
- 国道344号線まで8km

WHA Industrial Development Plc.
T. 662 719 9555 www.wha-industrialestate.com
Email: marketing@wha-group.com

WHA GROUP ニュースダイジェスト

Industrial Development

メナム・フォーラムのメンバーが WHAインダストリアル・ディベロップメント社を訪問

メナム・フォーラム・ネットワークの日本人訪問団がEECを訪れ、WHAコーポレーション株式会社のパッタヤ・ムンコン法人マーケティング担当マネージャーによる歓迎を受けました。同グループはWHAイースタン・シーボード工業団地1 (WHA ESIE 1) とイースタン・シーボード工業団地(ラヨン)の総合的な現地ツアーを行い、最先端技術を利用するターゲット産業のために役立てる準備が整っている世界水準のインフラストラクチャとサービスを見学しました。



ティー・ロウ・プライス社の経営幹部が WHA ESIE 1とESIE (ラヨン) を訪問

世界的な投資マネージメント会社であるティー・ロウ・プライス社のポートフォリオ・マネージャーを務めるジャイ・カバティア氏(左から2人目)をはじめとする一行がWHAコーポレーション株式会社の工業団地を訪問し、シヤバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当取締役(右から2人目)による歓迎を受けました。この訪問はゴールドマン・サックス(シンガポール)社の招待により行われたもので、一行はWHAイースタン・シーボード工業団地の詳細な見学を行い、顧客の投資機会を検討しました。



アサンブション大学の1989年度卒業生一行が WHAイースタン・シーボード工業団地1とイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) を訪問

海外の航空・宇宙産業の代表団が先日WHAイースタン・シーボード工業団地1 (WHA ESIE 1) とイースタン・シーボード工業団地(ラヨン)を訪問し、WHAコーポレーション株式会社のシヤバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当取締役(中央)による歓迎を受けました。一行は航空宇宙分野のサプライヤー企業、オマダ・インターナショナル(タイランド)株式会社が誇る最先端の施設の総合的な見学などを行いました。同代表団は航空宇宙製造部門の堅固な成長ぶりを視察し、タイ国内の投資機会を探ることを目的としてタイを訪れました。



WHAインダストリアル・ディベロップメント社がCLMVセミナーに参加

アセアン最大規模の業務委託分野の見本市である「SUBCONタイランド2019」の一環として開催された「CLMV市場: この市場に投資して成功する方法」(CLMV Market: How to Invest and Succeed in this Market)と題するセミナーで、WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のウィット・ジラティカーンサクン工業・国際担当最高執行責任者(左から2人目)がゲストスピーカーの1人として講演を行いました。ウィットCOOはベトナムにおける事業の成長と主な投資トレンドの概要について説明し、この市場で成功を収めるためのベストプラクティスについて語りました。



カスタマーニュース

日本のスパイバー社がWHAの工業団地を選択 タイで初めての工場の建設地として

日本のバイオテクノロジー新興企業、スパイバー社はWHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社が開発したイースタン・シーボード工業団地(ラヨン)に工場の起工式を開催しました。このプラントはスパイバー社にとって初めての海外設備で、微生物の発酵プロセスによって生産される構造タンパク質「プレュード・プロテイン」を量産します。生産したタンパク質は、スパイバー本社に輸送され、衣料や自動車部品など幅広い産業用途に応じた素材に加工されます。



コンチネンタル社が起工式を開催 WHAイースタン・シーボード工業団地4で二輪車用タイヤ工場を建設

世界水準のタイヤメーカーであるコンチネンタル・タイヤ(タイランド)株式会社は先日、ラヨーン県のWHAイースタン・シーボード工業団地4 (WHA ESIE 4)において二輪車用タイヤ工場の起工式を開催しました。新工場は2019年3月に稼働を開始した乗用車用タイヤ工場の隣接地に建設され、最新技術を完備します。2021年に完成する予定で、コンチネンタル社は自動車市場で拡大しつつある顧客需要に十分に 대응することが可能になります。



WHA UP

WHAUPがガルフ・MITGと提携して WHAイースタン・シーボード工業団地4 (WHANGD 4) で天然ガス配送を正式に開始

WHA ユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社(WHAUP)、ガルフ・エナジー・ディベロップメント株式会社(ガルフ)、MITG(タイランド)株式会社(MITG)の大手エネルギー企業3社の業務提携により設立されたガルフ WHA MT ナチュラルガス・ディストリビューション株式会社(「ガルフ WHA MT」)は先日、ラヨーンのプリアック・デー地区にある WHA イースタン・シーボード工業団地 4 (WHANGD 4) で天然ガス配送サービスを開始しました。この新規プロジェクトは年間 200 万 MMBTU の天然ガスを配送する能力を持ち、東部経済回廊(EEC)にある WHA グループの工業団地における各業界のエネルギー需要に継続的に対応します。最初のプロジェクトは昨年後半に WHA イースタン・シーボード工業団地 2 (WHANGD 2) で開始されました。



WHAUPが脱塩水の販売でGPSCと契約締結

WHA ユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社(WHAUP)のウィット・チュンワタナ最高経営責任者(中央右側)、グローバル・パワー・シナジー株式会社(GPSC)のチャワリット・ティッパワニット最高経営責任者兼社長(中央左側)とソムキアット・マンスタスウン事業開発・企業戦略担当執行副社長は先日15年間にわたってGPSCに脱塩水を販売する契約を締結しました。GPSCの当初の発注は年間150万m³となります。商業サービスの提供は2019年10月に開始されます。



WHAUPがPTTに祝意を表明 インテリジェント・オペレーションセンターの起工式で

WHA ユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社のウィット・チュンワタナ最高経営責任者(中央右側)は先日ワノン・ラオスワン公共インフラサービス・プロジェクト開発担当取締役と共にラヨーン県ワンチャン・パレー・プロジェクトのEECIでインテリジェント・オペレーションセンターの起工式に出席し、PTT株式会社のウィットワット・スワスティ・チュート最高技術・エンジニアリング責任者(中央左側)に祝意を伝達しました。



ナッタパット・タンブーンエク氏が WHAUPの新CFOに就任

WHA ユーティリティーズ・アンド・パワー社はベテラン・ビジネスマンであるナッタパット・タンブーンエク氏を新しいCFOとして迎えました。ナッタパット氏は資本市場分野での広範な経験に加え、エネルギー部門の専門家でもあります。同氏は着任と同時に WHAUP の公共インフラサービス事業とエネルギー事業の双方を推進していきます。



CSR

WHAグループが40回目の献血活動を開催 ラヨーン赤十字社と共同で

WHA グループは先日、赤十字社ラヨーン県支部と協力して WHA イースタン工業団地(マブタブット)(WHA EIE)において40回目となる献血活動を開催しました。WHAの従業員、入居企業関係者、地方自治体職員、地域住民など195名の協力を得て合計8万6,450ccの血液が集められました。この活動は血液の供給を守り、輸血を必要とする地域住民の命を救うのに役立ちます。



WHAグループが安全で清潔な教室を提供 ラヨーンのバン・ノン・ライ学校に

WHA コーポレーション株式会社のシヤバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当取締役(3列目中央)とWHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のスヤ・パオブントーン総務部長(3列目、左から4人目)は先日、ラヨーン県にあるバン・ノン・ライ学校に新たに設置された防鳥ネットの贈呈式に出席しました。このプロジェクトはWHAグループとWHAインベスターズ・クラブおよび慈善ゴルフイベントの寛大な寄付者から寄せられた基金により実現したもので、生徒のために安全で清潔な教室環境を創ることを目的としています。

